



府中国際交流サロン  
FUCHU INTERNATIONAL SALON

# くろするろ〜ど

ふちゅうこくさいこうりゅう 府中国際交流サロンは、府中に住む  
にほんじん がいこくじん 日本人と外国人が、なかよ 仲良く助け合っ  
たの せいかつ 楽しく生活していくことを願って、活動をつ  
つづ 続けています。

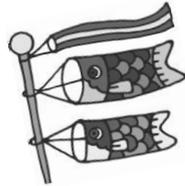
2019/5月号

かいほうし  
会報誌

★★★★★crossroad★★★★★crossroad★★★★

★★★★★crossroad★★★★★crossroad★★★★

げっかん 2019年5月  
〜サロン月間カレンダー〜



じっこういんかい しんいん き  
「実行委員会の新委員が決まりました」

## ■文化交流活動

5月10日(金) 午前10時〜12時  
「書道体験」10名・参加費100円  
場所：サロン第1会議室

5月24日(金) 午前10時〜12時  
「着物着付け教室」〜和服を着てみよう〜  
10名・参加費100円  
場所：サロン第1会議室

以上の対象はサロン学習者とボランティアの方。

4月10日の実行委員会において、今年度のサロン  
実行委員会の新体制が決まりました。会長には鷹見  
まさあきさんが再任され、副会長には堤林初音さん、  
島田ふみえさん、末田圭治さんが新しく選任されま  
した。一部部会でも新しい委員が選任され、委員の  
方々は以下のとおりです。

## 「2019年度(令和元年度)実行委員一覧」

## ■「教授法研修会」

5月14日(火)〜7月16日(火) 全10回  
毎週火曜日・午後2時〜4時  
講師：山田しげみ先生

(東京外大オープンアカデミー講師)

対象：ボランティア5名(先着順)

受講料：5千円・テキスト「みんなの日本語」

## 【役員】

会長 鷹見正昭  
副会長 堤林初音  
同上 島田ふみえ  
同上 末田圭治  
会計 井原博美 1名未定  
監事 2名未定

## ■「バス研修会」

5月25日(土) 午前8時出発〜午後4時帰着

場所：「檜原・都民の森」

費用：無料(現地での経費は自己負担)

対象：ボランティア・学習者

定員：40名(応募者多数の場合は抽選)

## 【日本語学習部会】

月曜午前 部長 平松 進  
副部長 桑島宗利  
同上 小沢智子  
月曜午後 部長 萱生由美子  
副部長 佐藤英子  
同上 仲野さゆり  
水曜午後 部長 島田ふみえ  
副部長 末田圭治

★以上すべての申し込みと詳しいことはサロン事務局まで。

金曜午後 部長 大峽なを子  
副部長 秀徳英子  
金曜夜 部長 若狭 裕  
副部長 里村 恵  
同上 齋藤久子

【日本語ボランティア研修部会】

部長 大島洋子  
副部長 小杉英子

【企画部会】

部長 濱口 晃  
副部長 市村秀子

【文化交流部会】

部長 橋本せい子  
副部長 有馬圭子

【生活情報支援部会】

部長 野川豊子  
副部長 橋田 寛

【会報部会】

部長 堤 林 初音  
副部長 和田泰弘

(敬称略)

\* 未定の会計1名と監事2名は5月の実行委員会で選任予定。

「桜まつりは笑顔も満開！」

水曜午後ボランティア 末田圭治

百花繚乱の如き満開の桜は快晴の空にこそ良く似合います。冬の寒さを耐えてきたからこそ、我が世の春を咲き誇るが如く天空に映え渡ります。

桜まつり(4/6(土)、7(日))の桜は、そんな思いを抱かせてくれました。

サロンブースでは、府中市民や市内外国人の数あ

てクイズをりましたが、席に着いて答える人は皆無でしたので大きな声で「府中市内の外国人の数は何人でしょうか?」と言うと「1万人!」とか言われて、「えっ!そんなに多いと思っっているの?」と、こっちが慌てました。(実際は、5,240人)

クイズを尻目にブースの席に着いているのは主に子供たちです。可愛い消しゴム判子をハガキに自由にスタンプしています。子供らしい可愛いもの、芸術的なもの、うん?的な出来映えなど様々でしたが、とにかく、「ほめて伸ばす」を信条に喜んでもらおうと、こちら元気をもらいます。そのときの子供たちの笑顔は、そのまま子供たちひとりひとりに花が開くことを連想させ、府中の今、そして未来が花開いていくことにも繋がっているようでした。

公園ステージでは文化交流部会のボランティアと学習者の方々が、ハワイアンダンスを披露しました。『亜麻色の髪の乙女』のなじみの曲にテンポよく息の合った見事なフラダンスが印象的でした。次に、スピナルさんの民族舞踊です。真っ赤な衣装を大きく広げたり、しなやかに舞ったりの見事な圧巻の踊りです。無料で見ていいのだろうかと思し訳ない気持ちになりました。スピナルさんは中国のウイグル自治区の方です。ふる里の家族のことなどの不安を抱えながら踊られているのではないかと、春満開の桜の下ではあっても厳冬の心情を持つ舞いだったかも知れません。でも桜は、厳冬を経て必ず快晴の春が来ることを教えています。ウイグルの人々にも、府中の人々にも、どんな人々にも、冬は必ず春となることを願わずにはられません。

さあ、桜の春から新緑の夏へ、日本語教育等の交流を通じて、満面の笑顔の花が万葉と咲くように一歩また一歩と、歩みを進めていきましょう。



踊りを終えた参加者のみなさん

# 世界文化

## 「府中の歴史を知りました」

劉 歆 (中国)

みなさん、府中市の歴史について、ご存知ですか？  
例えば、府中市の起源や名前の由来等です。これら全ての疑問の答えは「郷土の森博物館」で見つけられます。「郷土の森博物館」に行ったことによって、今住んでいる府中市のことがもっと知ることができ、もっと好きになりました。そして、「郷土の森博物館」の奥に行くと、梅林があります。多種多様な梅が咲いていい香りが空気の中に漂って、すごく綺麗でした。みなさんたちと一緒に話して、楽しんでました。また、是非周りの友達に紹介し、連れていきたいです。

## 「日本料理『のり巻き』」 Japanese Food "Norimaki"

浅井ローナ (フィリピン)

府中国際交流サロン文化交流部のお料理教室が3月15日に中央文化センターでありました。

今回のテーマは「のり巻きを巻いてみよう」です。

3つの種類の巻物を作りました。のり巻き、花のり巻き、サラダ巻き。他の料理もありました。お吸い物とほうれん草のごまあえと寒天あずきです。

戸邊先生は料理の仕方の説明と教えるのが上手です。他の先生達もおしえてくれて頼りになりましたのでレシピが無くても分かりやすかったです。

最初は私は巻くのは自信がなかったです。難しそうに見えたので上手く出来ないと思いました。始めの1本をやってみたら、上手く出来たので嬉しかったです。

私はフィリピンに帰ると必ず日本の食べ物や文化や習慣などを友だちや家族に紹介します。去年は129人の生徒に折紙を紹介しました。今年は私がシチューを作って、そしてのり巻きはみなで作ります。

した。作るの楽しいし健康的です。「超美味しい  
した食べたい、作りたい」と何人かがい言いました。  
とても良かったと思いました。また来年もやります  
のでもっと日本の事を知りたいし覚えたいです。



「これからいただきます」ローナさん (中央)

## 「現場で怒られてばかりいた私」

グエン スアン ティン(ベトナム)

私は、ベトナムから来ました。母国では土木建設を専攻し、卒業後ずっと設計補助の事務仕事をしましたが、設計段階で描いたものを、現場で実際に何も  
ない状態からどうやって道や橋を造り出していくのかを知りたくて現場監督に挑戦しようと決めました。もちろん、ベトナム国内で挑戦するつもりでした。

そんな私に、2013年に家族滞在として来日するチャンスがやってきました。その時には日本へ行こうと思っただけでなく、日本語は少しもできませんでした。どうやって仕事を見つけるのか、どうやって生活を送っていくのかなどをさんざん考えた末に、少なくとも日本で日本語を勉強しておこうと思い、来日することにしました。来日後、日本語を学習することに全力を注いでいましたが、なかなか日本語でコミュニケーションができませんでした。日本語学習が三年目に突入した時に就職活動をしてみようと思っ、六ヶ月程就職活動を続けました。その結果、とある企業から内定をいただきました。しかし、建設業界の企業ではありませんでした。来日する前の現場管理に挑戦したい思いを抱えつつ、

偶然、平岩建設の土木工事現場管理者の募集を耳にして応募してみたら採用していただきました。

当初は「今まで現場での仕事は未経験で、今日から皆さんのご指導をどうぞよろしくお願い致します。」というような挨拶もきちんとできなかった私の現場との付き合いが始まりました。現場のことをまったく知らない私が最初の頃に頼まれた仕事は、「とりあえず現場の様子を見といて」「みんなの仕事を見といて」「現場をキレイにしといて」「現場で行われている仕事の流れを把握できる写真、これが必要だと思われる写真を限りなく練習として撮るといって」といったことでした。現場に出ると、「お〜い、ここでうろろしてると邪魔だよ、どけ〜」「そこに立ってたら死ぬよ、お前」「バカ」。普段あまり耳にしないきついことばかり言われました。現場には怖い人ばかりいるのかな〜、その時は自分の中でそう思っていました。もし、そこで皆が優しい言葉でコミュニケーションをとるとしたら、現場はどのようになるのかを想像してみました。やはり、怒っているような叫んでいるような声で喋らなかつたら、危険な状況から人払いできず、重機による騒音環境の中で相手に伝わりません。そうすると怒っているような叫んでいるような声が、現場では当然のことなのだと分かってきました。

また、毎日、現場での仕事が終わった後、撮った写真データの確認を先輩にお願いし、写真の状況から良い点や悪い点を色々と説明していただいたおかげで、「現場で自分の役割が分かっているせいだろうろろして現場の安全に影響を与えたこと」などが怒られていた原因だと分かってきて、その後は怒られないように自分を改善していきました。不安全な状態になる行動、また、不安全な行動をしない。日々、職人さんの仕事を見て覚えてきた仕事の流れから考えて、職人さんに積極的に協力する。こうすることで、だんだんと職人さんたちと楽しくコミュニケーションができ、現場や技術のこともいろいろ教えていただけるようになりました。

現場との付き合いは、あつという間に一年が経ち、まだ怒られ続けてはいますが、現場で品質管理の写真を撮れるようになり、ある程度現場をコントロールできるようになりました。一年を振り返って

みると、勉強できたことはまだ少ないですが、何もなく不便だったところに今は綺麗で広い道ができていて、そこを通るたびに「この道に自分の小さな力も貢献したよ〜」ということを皆に教えたい誇らしい気持ちでいっぱいです。工事現場では色々大変なことが沢山ありますが、自分も貢献して造ったものを見るたびに言葉では表現しきれない嬉しさがあることも、建設業の仕事を目指している皆さんに伝えたいと思います。

**\*編集部注：3月号の「みんなの広場」で紹介しましたが、これはティンさんが建設産業界の作文コンクール「私の主張」で入賞した作文です。**



## 「日本は最高！」

高本ジナリン(フィリピン)

日本はとても素晴らしい国で愛することはたくさんあります。

食べ物をはじめ、この国にいろいろな最高なことがあります。食べ物があっさり毎日食べてもおいしくて健康にいいです。小学校でのきゅうしょくと病院の食べものはおいしいです。

サービスは最高です。日本人のサービスは信頼性があり、効率的でスムーズです。たつきゅうびんやレストランや市役所やかいしゃなどですべてのじむと店の人もニコニコしているし、やさしいし、はやいです。

交通機関もほかの OECD の国と比べても、日本の新幹線と電車とバスもていこくで、じこがあまりありません。ほかの先進国ととじょう国とくらべるとにほんはあんぜんです。はんざいりつはいちばんひくいです。

日本はどこでもきれいです。たしかにだれでもわたしにどういするとおもいます。町やレストランや

こうえんやトイレやスタジアムなどは毎日きれいで  
す。

日本中北から南にわたってゆたかなしぜんがた  
くさんあります。しんりんよくするとき、パラダイ  
スにいる気持ちみたいです。

すべての国は欠点がありますが、私にとって日本  
はせかいでさいこうです。



ジナリンさんの好きな日本の風景



わたしのふるさと ~13~

「ネギだけではありません」

水・金曜午後ボランティア 牛丸三枝

「出身地はどちらですか？」

「埼玉県の深谷という所です。」

「深谷？あーあの深谷ねぎの産地ですね。」

「えーまあそうです。」

「深谷のねぎは柔らかくておいしいのよねー。」

これがいままでの深谷に対するイメージであり、  
深谷に関する話題のすべてでした。でもこれからは  
違います。(たぶん・・・)

「出身地はどちらですか？」

「埼玉県の深谷です。」

「すごい！あの一万円札の新しい顔になる近代日  
本資本主義の父といわれる渋沢栄一さんの出身地で  
すか？」

「はい！そうです。」

確かに渋沢栄一は私の郷土の誇りですが、私は  
大人になるまで彼がどんな人で、何をした人なのか  
全く知りませんでした。たしか、学校でも教えても  
らった記憶はありません。大人になってから、テレ  
ビのドキュメンタリー番組とか、雑誌に掲載されて  
いる記事を読んだりして知るようになりました。

日本で最初に銀行を作り、500件以上の企業を立ち  
上げ、100年後の今もほとんどが一流企業として  
現存している等々を知るようになり、びっくりしま  
した。

今でこそ、彼の銅像が深谷駅前にあります、私  
の若いころ(40年位前)にはありませんでした。

生家が残されていることは以前に聞いたことはあり  
ましたが、深谷にある資料館は、それほど前からあ  
ったものではないようです。むしろ都内北区にある  
資料館のほうが知られているのではないのでしょうか。

今までの私のふるさととの渋沢栄一への関心度は、  
「外国に指摘されて改めて日本の良さに気づく」今  
の日本に似ているような気がします。



深谷駅前の渋沢栄一の銅像

べん きょう かい ほう こく  
**勉強会報告**

～94～

にほんごのうりよくしけん  
**「日本語能力試験N1～N5について」**

けんしゅうぶかい さとうえいこ  
研修部会 佐藤英子

4月17日の勉強会には学習者2名を含む20名が参加、初めに、日本語能力試験の概要をボランティアの小川秀樹さんに話していただきました。

1984年の開始当初は国内外合わせて約7000人だった受験者数が、昨年2018年には国内で約36万5000人、海外では約64万4000人で計100万人を突破、外国人にとって最も人気のある日本語試験となっています。

N1～N5の全レベルで言語知識、読解、聴解がテストされ、総合点だけでなく、各科目の基準点を超えなければ合格できない仕組みです。N5レベルでは、100字程度の漢字と80語程度の語彙、最難関のN1は2000字程度の漢字、1万語の語彙が一応の目安とされています。(ちなみに小学校6年間で習得する漢字数は1006字で、N2あたりか)

学習者の岡林さん、孟飛さんには実際の受験の様子を話していただきました。二人がまずあげたのは、読み上げが1回だけの聴解がとても難しいということでした。他にも、否定形の質問あり、引っ掛け問題ありで時間が足りないそうです。が、マークシートは全部塗りつぶしておくことが大切とのことでした。また、岡林さんからは「試験を受けると自分に何が不足しているのかが分かるので勉強に役立つ」という意見が出ました。

受験者を担当したボランティアの、教える側の体験談を聞き、最後にみんなでN1とN5の聴解問題のCDを試聴しました。N1の話す速度、情報量の多さに、「こんなに難しいのを受けているのか」と驚きの声もあがりました。

日本語の資格の有無を、就職、仕事、給与に直結させている企業の話も出ました。日本語を取り巻く状況について、いろいろ多面的に考えることができた勉強会でした。

にほんご  
**日本語おちぼひろい**

～56～

まんようしゅう まつり  
**『万葉集』と『くらやみ祭』**

きんようよる わだやすひろ  
金曜夜ボランティア 和田泰弘

新しい元号「令和」の出典が『万葉集』と聞き、半世紀も前の大学4年の冬、卒業論文と格闘していた日々が懐かしく思い出されました。『万葉集』を題材に、全二十巻(四千五百余首)の中でも、東国(関東地方)だけの歌を集め異彩を放つ巻十四の「東歌」の発祥を課題にし、先達の文献を必死に漁っていたのです。その源が「歌垣」であることを知り、題名を「巻十四・東歌の発母胎」としました。

「歌垣」(「耀歌」とも呼ぶ)は古代の農耕儀礼の一つで、五穀豊穰を祈る春と、収穫を感謝する秋に催される祭りの場で未婚の男女が歌を掛け合う儀式です。互いの意が通じ、歌が成立すると男女は暗闇の中に消え結ばれるのです。その交合は五穀豊穰につながると信じられていました。「東歌」の多くは相聞歌(恋の歌)で、この「歌垣」から生まれたとされています。府中の『くらやみ祭』の起源は定かではありませんが、大國魂神社は古代の文献『延喜式』に登場し、その祭りの場で「歌垣」が催されたとも考えられます。

大國魂神社の参道入り口の正面に『武蔵野の草は諸向かもかくも君がまにまに吾は寄りにしも』(武蔵野原の草が風に靡くように、あなたの意のままに私もあなたに靡いてしまったものを。)という東歌の歌碑があります。ほかに八首ある武蔵国の東歌とともに、『くらやみ祭』での歌垣がその発祥では、と想像すると遙か古代の恋の息吹が伝わってくるようです。

卒論は結局、文献からの引用の継ぎ接ぎで、『万葉集』ならず「引用集」という結果と相成りました。恩師池田弥三郎先生からは「よく調べた」の一言のみ。しかし、合格点をいただけのでした。

# 皆さんよろしく◇学習者紹介

アーノルド モエバ さん(コンゴ)



## 「週5日間日本語を勉強」

アフリカ中部には、コンゴ共和国とコンゴ民主共和国が隣合っています。アーノルドさんは、首都がキンシャサのコンゴ民主共和国から2018年5月日本に来ました。

大学はインドのマナフ・ラックナ・インターナショナル大学でインターナショナルビジネスやマネジメントを学びました。

国に帰ってからNPOで人権問題に取り組んでいたため、政府から弾圧され、日本に難民として受け入れてもらいました。日本語が上達して仕事ができるまで、日本の政府が生活を支えてくれています。早く日本語をマスターしたいと思っています。それで、府中のサロンに週3回、その他のところに2回行って日本語を勉強しています。

趣味は、テレビをみたり、クッキングをすること。また、大学時代やっていたフットボールを今でも千葉のアマチュアクラブでときどきやっています。

日本は治安が良く、静かできれいだと思うし、食べ物も、お寿司のような生の魚は食べられませんが、魚のフライや焼き鳥は大好きだそうです。

好きな日本語は「すみません」「ありがとう」「どうぞ」「どうも」「よろしくおねがいます」です。

将来のことはまだわかりませんが、日本語を早くマスターして、自分が興味をもてる仕事をしたいと考えているとのことでした。

がんばれ！がんばれ！

(堤林)

# わたし 私の☆つばやき

あたら おと  
「新しい音」

げつようごぜん いわき めぐみ  
月曜午前ボランティア 岩城 恵

お水をごくごく飲んで、ふとんでぐっすり寝て、日本の子どもは擬音語、擬態語と一緒に育ちます。

「ちゃらちゃらしてウェイ系だったのに、今はゆるふわ女子だね。」

と若者もよく使います。ウェイと言いながら元気に飲み会をしていたのに、優しい雰囲気になったね、という意味のようです。

昨年、外国人高校生に日本語を教える機会をいただき、N3合格を目指す8人を担当しました。まだ日本に来て1、2年ですから、音で表現できるのは「どきどき」と「いちやいちや」だけでした。

韓国人学生は「しーんとする」や「ぎゅっと手をつなぐ」を母語に訳せましたが、パキスタン・フィリピン・ペルー・中国の学生には初めての感覚です。みんな、絵を見て楽しそうにたくさん覚えてくれました。

「もし、日本人の名前が瀬葉素茶安だったらどう？」と字を見せると、

「きらきらネーム、ですね。」

と笑ってくれるまでになりました。

未来の東京を生きる外国人高校生。彼らのセンスで、私たちがまだ知らない音を使って子育てする日が来るかもしれません。この輝く笑顔がいつまでも続きますようにと願いながら、新しい時代を想うひとときでした。



# みんなの広場

## 「ワールドフェスティバルに参加」

3月30日(土)、31日(日)の両日にわたり、府中駅南口から伊勢丹に通ずるペディストリアンデッキにおいてワールドフェスティバルが開催され、サロンも参加し、世界の遊びを紹介しました。

地面に並べた偶数本(4~8本)の竹の間を跳んで移動するベトナムのバンブーダンスを、30日にはブイ・ティ・ホアさんが、31日にはグエン・トゥアンさんとグエン・ホアさんが実演し紹介してくれました。たくさん子どもたちが竹を叩く音に合わせてリズムカルに跳びはねて楽しんでいました。ほかに中国の石蹴り、「オワンアン」と呼ばれる囲碁のようなベトナムのコマ取りゲーム、中国の跳皮筋(ゴム跳び)などが実演とともに紹介され、多くの親子や大人の方が世界の遊びを楽しみました。サロンの紹介にもつながる充実した二日間の国際交流イベントでした。お手伝いくださった学習者とボランティア、そして市の皆さま、お疲れ様でした。

(編集部)

## 「初のサロンオリエンテーションを開催」

4月13日(土)、今期教授法研修を受講される市民の方を主な対象にして、サロンの活動主旨と内容を説明するオリエンテーションを実施しました。これまでは、教授法研修会の中にサロンの活動説明会を30分ほど組み込んでいましたが、初の試みとして、サロンのPRも兼ね事前にサロンのことを知っていただくことを目的に教授法研修会が始まる前に開催しました。

当日は2時間にわたり、会長、各部会の部会長、ボランティア、そして市の方々がサロンの目的や活動内容を説明し、参加された22名の方々は熱心に耳を傾けてくださいました。「受講前にサロンのこ

とがよくわかり、よい判断材料になりました」という感想もいただき、終了直後に10名の方が申し込まれ、4月30日現在で21名に達しています。

オリエンテーションが市民へ向けたサロンの新しい活動として今後も根付いていくことを願っています。

(編集部)

## ～編集後記～

今月号で紹介したように、新たな元号とともに実行委員会も新しい顔ぶれでスタートします。

府中に住む外国人人数が5240人(3/1現在)に達し、全人口の2%を占め、さらに今後予想される外国人労働者とその家族の増加にともない、サロンの役割への期待も増していくことと思います。

そんな中、「自分ができる範囲で、できることを」というボランティアの原点を忘れずに、新しい体制のもと、サロンで日本語を学ぶ外国人の方々から「サロンに行くのが楽しみ」というひと言が聞けるような場を目指したいと思っています。

(和田)



【編集】 編集長：和田泰弘

会報部会：堤林、和田、岩城、末田

【事務局】 電話：042-352-4178

E-mail：mail@fuchukokusai.gr.jp

サロンのホームページ

<http://www.fuchukokusai.gr.jp>